

佳作

きれいなおやさん

京都府 京都市立紫明小学校二年 小川 桃椰

毎朝、学校の中にわのはたけのおやさいに雨水をあげて、元気にそだつようにとかんさつしていた。

あつさのせいかな、はっぱがかれてしまったときは、あきらめずに水やりをした。そうしたら、ピーマンやミニトマト、さつまいもなどのおやさいが次つぎに元気をとりもどした。いつもは雨水で水やりをしていたけれど、晴れた日がつづいて雨水がたまるタンクのそうちの水がなくなった時に水道の水をあげた。

「おかしいな。」

「いつもの元気がない。」

その日の夕方、夏らしい夕立がふった。タンクに水がたまっていることにききたいして学校に行った。思ったとおり。たっぷり雨水をあげたらいきいきとしていた。雨水は水道の水よりもえいようがあるのかもしれない。自ぜんのものはすごい。ぼくの気も

ちもいきいきしてきた。

一生けんめいそだてたおやさいを家にもってかえる日がきた。うれしくて、でもおどろかせたくて、ただいまを言う前に、

「ランドセルの中はあけないで。」

と言った。いつもならほったらかしのきゅうしょくぶくろも今日はすぐに出した。お家の人に見せるプリントもすぐに見せた。あとは大切にもちかえってきたおやさいを見せるだけ。

「見て。」

きれいなまっ赤なミニトマトと、大すきなピーマンを見せると、お母さんにはっこりわらってくれた。あらったミニトマトをおさらに入れて、ピーマンをやいてくれた。家ぞくのみんなにわたすと、

「ありがとう。とってもおいしいね。」

と言ってくれた。すこしにが手なミニトマトをぼくも口に入れた。やっぱりすこしにが手なあじだったけれど、みんなにおいしいねと言われたことがうれしくて、いつもよりもずっとおいしくかんだ。

ゼリーの中にたくさんたねが入ったみたいなたまごの中みがかんたかたではない。だからスーパーやたかたかい生きよりのミニトマトはいつも食べてこなかった。でも、自分でそだてたミニトマトは小さくてか

わいたからものだった。きっとスーパーのおやさいにも大切にそだててくれた人がいて、その人にとってもたからものなんだと思う。そう思うと、スーパーのミニトマトも食べられる気がした。

学校でも家でも、ほかのおやさいをそだててみたい。どうもろこし、きゅうり、なす、まんがんとじょうがらし、かぼちゃ、——考えただけでわくわくする。早く食べたいな。